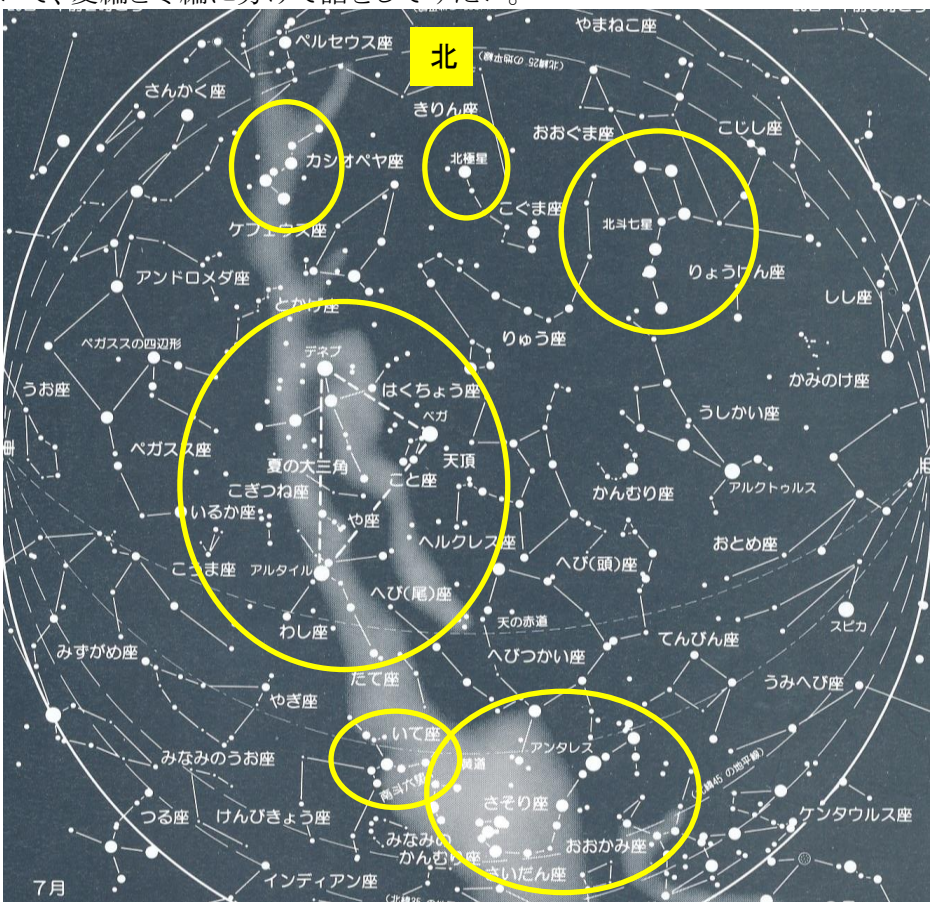
新人短信豆知識 N０１９

2014. 8. 13

◎夜空を見上げてみよう(夏編)

山に登って、テントサイドから、山小屋の窓から見上げる夜空は素晴らしい。都会で見られる星の数とは比べ物にならない。古代ギリシャ時代、この夜空を眺め、いろんな空想をめぐらし、星座を完成させた人々の思いの一端に触れたような気持ちになる。星座や簡単な有名星について、夏編と冬編に分けて話をしてみたい。



夏の星座表

①星とはなんだろう

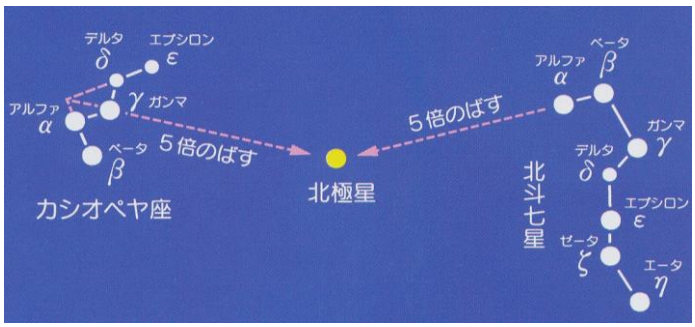
この宇宙は今から137億年前にビックバンによって生まれた事はご存知だと思う。そして太陽の様な恒星と地球の様な惑星も知っていると思う。しかしこの宇宙の中には常識では考えられない不思議が一杯。一つに輝く星の殆どは星団であったり連星、銀河であったり想像を絶する。我々の銀河系も宇宙では目立たず遠い将来ｱﾝﾄﾞﾚﾒﾀﾞ星雲と合体するという。

②星座とは

今の星座はギリシャ時代にはその原型は完成されたと言われている。そして、時刻を計り、季節を計り、星占いに利用されてきた。又星占いに使われる星座は天球の太陽が通る軌道上(黄道)にある12座(これを黄道12星座)だけ。そのため、そこから離れやオリオン座等は対象外の星座になっているのです。現在全天には88の星座が存在している。勿論すべて日本から見る事はできない。日本でも地域によりますが部分も含め83を見ることが出来ると言う、その中から形状的に見つけ易く、有名な物をいくつか紹介してみよう。

A. カシオペア座

これは北天空を眺めれが容易に見つける事が出来るWの形をしている。そして反対側の北斗七星と共に北極星を見つける星座としても有名である。詳しい星座の説明をする紙面は無いが右図より北極星を見つけて欲しい。



北極星の見つけ方

B.おおくま座

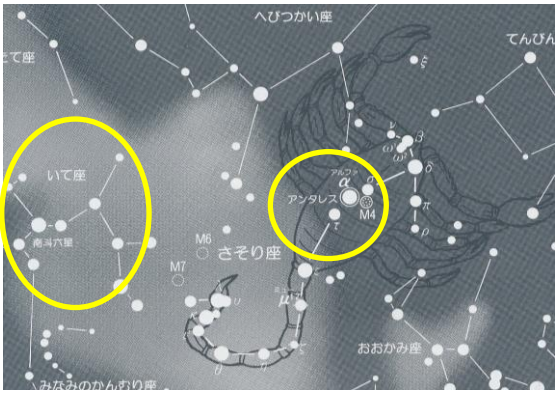
星座そのものより、その一部である北斗七星の方が有名であり、しっかりしたししゃく形をしており見つけ易い。カシオペア座と共に右図のように北極星を探す星座として有名である。しかし、どの星座でもいえる事だが、今の姿が永遠でない。北極星自体もいずれ北の目印にならないし、カシオペア座、北斗七星も将来、形は崩れる。

C.はくちょう座、織女、彦星

天の川の天頂に輝く十字架を探すとだんだん白鳥の飛んでいる姿が想像できてくる。一番明るい星をデネブと言い白鳥の尾の部分である。又右上には有名な織女(ベガ)、右下には彦星(ｱﾙﾀｲﾙ)があり七夕伝説を彷彿させてくれる.この3つの1等星を結ぶ三角形を夏の大三角形と言い、この星座や近くの星座を見つける目印となる。

D.さそり座、いて座

夏の南天の定番の星座はさそり座である。天の川に尾を浸し、胴の赤い1等星(アンタレス)が特徴的ですぐに見つける事が出来る。星座神話では、オリオンはこのサソリに刺され死んでしまう。そのためオリオンはサソリが怖くて夏天には姿を現わす事が出来ないと言う。もう1つ、ロマンをかきたてるのがすぐ横のいて座である。我々の銀河系は大きな渦巻の形をしており、その厚みの部分が天の川といわれている。そして銀河系の中心部分がいて座の付近にあるのだ。又逆ひしゃく形も見つける事ができ、南斗六星と言われている。



いて座とさそり座

＊星の明るさ:1等星から目に見えるギリギリの6等星まで分類されている。6等星を1とすると5等星は2.5倍の明るさで4等星は更に2.5倍である。1等星は6等星の約100倍の明るさである。全天には21個の1等星がある。ちなみに金星は－4.4等星、月は－12等星、太陽は－27等星である。